

シラカンバ花粉症患者における喉頭アレルギーについて

片田彰博¹, 國部 勇¹, 林 達哉¹, 熊井恵美², 野中 聡³, 原渕保明¹

旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科¹, くまいクリニック², のなか耳鼻咽喉科・気管食道科³

アレルギー性鼻炎の患者が咽喉頭異常感や慢性咳嗽などの症状を合併することは、よく経験されることである。このような病態に対して、喉頭アレルギーという概念が提唱され、喉頭アレルギー共同研究班を中心に診断基準の検討がなされてきた。本研究ではシラカンバ花粉症患者の咽喉頭異常感と咳嗽についてアンケート調査をおこない、シラカンバ花粉症と喉頭アレルギーの関連性について検討した。

対象は旭川医科大学耳鼻咽喉科および関連施設に通院するシラカンバ花粉症患者159例とした。シラカンバ花粉症は、1) 季節性の鼻症状がある、2) 鼻汁好酸球が陽性、3) 血中の抗原特異的IgEが陽性、の3項目で診断した。喉頭アレルギーの診断は喉頭アレルギー共同研究班の2005年案に従って、アンケート結果と診療録に基づき判定した。

シラカンバ花粉症患者159例中の88例 (55.3%) が喉頭アレルギーと診断された。喉頭アレルギー患者の症状は、咳嗽と咽喉頭異常感の両方を訴えた患者が40例 (42.0%)、咳嗽と咽喉頭異常感の両方を訴えた患者が48例 (58.0%) であり咳嗽のみの患者はいなかった。咳嗽の性質は乾性咳嗽が多く80%となっていた。咽喉頭異常感については乾燥感や搔痒感を訴える患者の頻度が高い傾向にあった。口腔アレルギー症候群の合併率は54.5%であった。

本研究の結果から、シラカンバ花粉症患者における喉頭アレルギーの咽喉頭症状の特徴について考察したい。